



～文化の風が吹くまち ちくしの～

文化薫道



◆其の百四 日本遺産の世界 in 筑紫野

古代の宝満山



毎日多くの登山者でにぎわう宝満山は、同時に古くから祈りの山、信仰の場であり、九州を代表する霊山としても知られています。

山頂周辺の巨大な岩の近くには、奈良時代にはじまった祭祀(さ いし)の跡が残っており、さまざまなモノが見つかっています。

なかでも、日本ではじめて釉薬(ゆうやく)を塗った奈良三彩(な らさんさい)の壺や律令国家が発 行した日本最古期の貨幣である皇 朝銭(こうちようせん)といった、 主に都周辺で作られた品物がある ことから、その祭祀は中央政府に よる国家的なものだと考えられま す。

では、このような祭祀は何のために行われたのでしょうか。宝満山と共通点の多い祭祀遺跡が、玄界灘に浮かぶ孤島・沖ノ島(宗像市)にあります。九州と朝鮮半島の中間という島の位置から、航海の安全や交流の成功を祈ったものと

いわれています。

国家的事業で大陸への航海といえ、遣唐使の派遣が思い浮かびます。宝満山での国家的祭祀の終わりは、遣唐使が停止される時期と重なることから、山頂でも祭祀の目的は、遣唐使の無事を祈ったものと考えられています。

では、なぜ宝満山だったのでしょうか。長く大陸との交流拠点であった大宰府や博多湾に近く、かつ玄界灘の先にある大陸を望むことができる「場」だったことが、その原因ではないでしょうか。



▲日本遺産「古代日本の
「西の都」」ホームページ

問文化財課

※日本遺産の詳細は、ホームページにて閲覧できます。



▲宝満山から玄界灘を望む

